

2016年度リハビリテーション（以下リハビリ）室は、急性期から回復期の入院リハビリを中心とした医療事業を行うリハビリ室と、在宅生活における生活リハビリを中心とした介護福祉事業を行う在宅介護支援室に機能分化した。そして、それぞれの立場から「Branding～他者との違いを明確化し価値を高める～」をスローガンに、新規事業である通所リハビリや様々な事業に取り組んできた。

【リハビリ室】

1. 人員体制

専任医：6名（回復期リハビリ病棟専従医1名）
理学療法士：16名 作業療法士：14名 言語聴覚士：5名
計：35名

2. 2016年度リハビリ依頼状況

リハビリ依頼件数は、入院疾患別リハビリなど720件、摂食機能療法のみ15件、外来リハビリ73件 計802件であった（表-1）。*消炎鎮痛処置除く

表-1 依頼件数の変化

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
入院疾患別リハ	685	701	711	676	720
摂食機能療法	82	89	75	42	15
外来リハ	62	71	78	71	73
合計	829	861	864	789	808

3. 入院リハビリテーション

(1) 患者属性

男性311件 女性409件。
平均年齢80.7歳(男性77.8歳 女性83.0歳)

(2) 疾患別リハビリなど分類

表-2 入院疾患別リハなど分類

	運動	廃用	脳	呼吸	がん	消炎
2016年度	304	162	131	90	31	2
2015年度	252	167	150	64	42	1
2014年度	275	142	167	81	43	3
2013年度	256	209	155	54	25	2
2012年度	250	201	166	58	10	0

4. 外来リハビリテーション

(1) 患者属性

男性40件 女性43件。
平均年齢63.4歳(男性 60.7歳、女性 65.9歳)

(2) 疾患別リハビリなど分類

表-3 外来疾患別リハなど分類

	運動	廃用	脳	呼吸	心理検査	消炎
2016年度	66	0	8	0	0	0
2015年度	64	0	5	0	1	1
2014年度	68	0	5	0	1	3
2013年度	66	0	1	1	2	1
2012年度	55	0	0	4	2	1

5. アウトカム評価（在宅復帰率とFIM利得）

リハビリ診療の効果検証の一助として、2016年4月1日～2017年3月31日までに当院のリハビリを受けて退院した患者679名（男性297名・女性382名）、平均年齢80.0歳（男性78.0歳・女性81.5歳）の病棟（床）別在宅復帰率およびFIM利得について調査した。

(1) 病棟（床）別在宅復帰率

一般病床：退院 98名（男性54名、女性44名）

平均年齢 81.6歳

	自宅	居宅施設	老健施設	病院	死亡	終了	合計
件数	33	7	4	21	32	1	98
%	33.7	7.1	4.1	21.4	32.7	1.0	100.0

地域包括ケア病床：退院 350名（男性165名、女性185名）

平均年齢80.1歳

	自宅	居宅施設	老健施設	病院	死亡	終了	合計
件数	238	39	20	40	13	0	350
%	68.0	11.1	5.7	11.4	3.7	0.0	99.9

回復期病棟：退院 231名（男性78名、女性153名）

平均年齢 79.0歳

	自宅	居宅施設	老健施設	病院	死亡	終了	合計
件数	174	15	26	15	1	0	231
%	75.32	6.49	11.26	6.49	0.43	0.00	99.99

(2) 病棟（床）別FIM利得

	入院(床・棟)時FIM	退院時FIM	FIM利得
一般病床	48.4	51.6	3.2
地域包括	70.9	85.0	14.1
回復期リハ	70.0	99.3	29.4

【リハビリテーション室における今後の課題

～2017年度にむけて～】

2016年度のリハビリテーション処方件数は808件と、2015年度をわずかに上回ったが、疾患別リハ別に見ると、運動器疾患が増加し、脳血管疾患におけるリハビリ処方の減少が見られる。回復期リハビリテーション病棟入院患者における脳血管疾患患者の割合は2016年度、初めて40%を割り込んだ。当院回復期リハビリテーション病棟においては理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置しており、脳血管疾患患者の入院割合の低下は解決すべき課題である。

在宅復帰率およびFIM利得においては、高い水準を維持している。外出訓練、退院前の訪問指導、さらには介護保険サービスとの連携強化など様々な取り組みを行っており、「入院患者の自宅・在宅復帰」において尽力している。

今後の課題として、地域住民に対する当院のリハビリテーション機能の広報活動を積極的に行うとともに、急性期病院（済生会熊本病院・天草地域医療センターなど）との前方連携の強化が急務である。

【在宅介護支援室】

1. 人員体制

専任医：1名（通所リハビリ）
理学療法士：3名 作業療法士：5名 言語聴覚士：1名
介護福祉士：1名 計10名

2. 訪問リハビリテーション（以下訪問リハ）

(1) 2016年度訪問リハの依頼状況と利用者属性

訪問リハ依頼件数107件。男性49件 女性58件
平均年齢78.6歳（男性75.3歳、女性81.3歳）

訪問リハ依頼件数の変化

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
依頼件数	29	44	60	66	107

(2) 訪問リハ実施件数の推移

訪問リハの実施件数は、この5年間で約4倍に増加し、着実に件数を増やしている。

訪問リハ実施件数の推移

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
件数	1,002	1,550	2,815	3,597	4,069

3. 通所リハビリテーション

通所リハビリテーションは平成28年6月に開設した。当院に介護支援専門員が1名しか居ないため、利用者の約半数は周辺地域の介護支援専門員からの紹介となっている。今後も近隣の介護支援専門員との連携を強化していきたい。

通所リハビリ延べ利用者数の推移

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ利用者数	30	65	89	114	152	165	183	181	174	231

4. 介護予防・日常生活総合支援事業（筋力アップ教室）

2011年度より宇城市から委託を受けて行ってきた介護予防事業は、2015年度より介護予防・日常生活総合支援事業となり、その対象者が介護保険要支援認定者まで拡大された。

地域包括ケアシステムにおける、これら予防的リハビリテーション事業は重要視されており、その利用者も少しずつ増加

している。

登録者および延べ参加数

2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
423	455	588	700

5. 宇城地域リハビリテーション広域支援センター

（熊本県委託）

宇城地域リハビリテーション広域支援センターとしての事業は、2012年より周辺地域の地域リハビリテーションの啓発・普及活動を主な目的として行っている。地域の事業所からの認知度も高まり、出張相談依頼も増えてきている。また、熊本地震における復興リハビリテーションへの協力や、宇城市の地域ケア会議・地域包括ケアシステムにおける「通いの場」作り・公民館事業への協力など、熊本県や宇城市との地域リハビリテーション活動を通じた連携の強化に努めている。

宇城地域リハビリテーション広域支援センター活動

	研修会開催	地域連絡会	出張相談事業
2016年度	2	3	17
2015年度	2	4	29
2014年度	2	3	13
2013年度	2	3	12
2012年度	3	2	8

【在宅介護支援室における今後の課題

～2017年度に向けて～】

2016年度は、在宅リハビリテーション、介護福祉領域における事業拡大のためにリハビリテーション室の機能分化を実施し在宅介護支援室を立ち上げた。今後地域包括ケアシステムの構築は更に推進され、在宅リハ介護福祉事業のニーズは高まると予測される。当院では、訪問リハビリ、通所リハビリ、介護予防・日常生活支援総合事業、宇城地域リハビリ広域支援センターというリハビリテーション機能を有しており、地域のニーズに応じた事業展開が望まれている。

なかでも6月に開設した通所リハビリは、地域のニーズは高いにも関わらず、まだ安定的な運営とは至っていないのが現状である。さらなる業務改善と広報活動を充実させ、さらには周辺事業所との良好な連携関係を築きながら「安心して生活を続けることのできる地域創り」に貢献したい。